

第2期地域福祉計画実績評価(平成29年度～令和3年度実績)

資料2

| 基本方針 |                      | 基本施策 |                 | 取組を測る指標 |                                   | 実績評価  |  |
|------|----------------------|------|-----------------|---------|-----------------------------------|---|--|
| 1    | 支え合い助け合う地域づくり        | 1    | 地域福祉意識の高揚と担い手育成 | 1       | この1年間に地域福祉活動に参加した市民の割合            | 目標値は平成29年度が23%で最終計画年度の令和3年度は30%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が23.4%から令和2年度には19.6%に毎年度減少し、最終年度の令和3年度は20.5%に若干の増加となりました。実績の経過の要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により市民の活動に支障が生じたためと考えられます。  |  |
|      |                      | 2    | 地域福祉活動の支援       | 2       | 社会福祉協議会が地域福祉の核として機能していると思う市民の割合   | 目標値は平成29年度が26.0%で最終計画年度の令和3年度は30.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が22.0%から令和2年度には28.3%に毎年度増加したものの、最終年度の令和3年度は26.4%に前年度-1.9ポイントの減少となりました。実績の経過の要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響からボランティアの受け入れができない状況であり、ボランティア活動が思う様にできず社会福祉協議会の活動に支障が生じたためと考えられます。   |  |
|      |                      | 3    | 支え合い体制の形成       | 3       | 地域の中で、互いに支え合える仕組みが整っていると思う市民の割合   | 目標値は平成29年度が44.8%で最終計画年度の令和3年度は55.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が49.5%から令和2年度には50.1%に若干増加したが、最終年度の令和3年度は49.5%とほぼ横ばいでした。実績の経過の要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響から、高齢者見守りサポーター養成講座や認知症高齢者声かけ模擬訓練などの中止により、支え合える仕組みづくりに支障が生じたためと考えられます。  |  |
| 2    | 生きがいを感じ健やかに暮らせる地域づくり | 1    | 生きがい活動への支援      | 4       | 生きがいを持っている60歳以上の市民の割合             | 目標値は平成29年度が61.0%で最終計画年度の令和3年度は65.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が62.8%から毎年度減少を続け、最終年度の令和3年度は49.3%まで減少しました。実績の経過の要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響から、元氣わくわくスポーツ大会や高齢者の社会参加活動に大きく支障が生じたためと考えられます。  |  |
|      |                      |      |                 | 5       | 生涯学習に取り組む市民の割合                    | 目標値は平成29年度が41.5%で最終計画年度の令和3年度は45.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が41.5%から毎年度減少を続け、最終年度の令和3年度は36.0%まで減少しました。実績の経過の要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、守谷ハーフマラソン大会など市民参加のスポーツイベントや社会参加活動に大きく支障が生じたためと考えられます。   |  |
|      |                      | 2    | 健康づくり意識の向上      | 6       | 心身ともに健康だと感じている市民の割合               | 目標値は平成29年度が80.0%で最終計画年度の令和3年度も同じく80.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が77.2%から令和2年度には75.2%に若干の増減を経て、最終年度の令和3年度は73.7%まで減少しました。実績の経過の要因としては、市民が健康づくりや生活習慣病予防に取り組むよう意識向上を図っていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、仕事や生活に不安やストレスを感じている方も少なくないことが考えられます。  |  |
|      |                      |      |                 | 7       | 1年に1回健診を受けている市民の割合                | 目標値は平成29年度が80.0%で最終計画年度の令和3年度も同じく80.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が80.2%から令和2年度には76.7%に若干の増減を経て、最終年度の令和3年度は前年度と比較して+1.2ポイントの増加で77.9%でありました。実績が目標値を下回った実績の経過の要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、健診を受けなかった方がおり、今後は、自らの健康状態を知り、健康意識を高めるためにも健診を受けさせることのメリットを啓発していく必要があります。  |  |
| 3    | 情報が共有され相談しやすい地域づくり   | 1    | 相談体制の充実         | 8       | 在宅介護支援センターでの相談件数                  |   |  |
|      |                      |      |                 | 9       | 障がい者相談支援事業所での相談件数                 | 目標値は平成29年度が900件で最終計画年度の令和3年度は850件と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が919件から令和2年度には1,216件と若干の増減を経て、最終年度の令和3年は1,572件と大きく増加しました。実績の経過の要因としては、多くの障がい者やその家族が抱える様々な問題を解決していくために、障がい者相談支援事業所を核とした相談支援体制を構築した結果が相談件数の増加につながったと考えられます。   |  |
|      |                      | 2    | 情報発信の充実         | 10      | 行政情報が十分に提供されていると感じる市民の割合          | 目標値は平成29年度が80.0%で最終計画年度の令和3年度は90.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が77.3%から令和2年度には82.5%件に増加し、最終年度の令和3年は86.3%にさらに増加しました。実績の経過の要因としては、新型コロナウイルス感染症の発生によるワクチン接種の案内や同感染症の影響に対応する各種の相談窓口の案内などを市ホームページ、Morinfo（もりんふお）、広報誌などを活用し、適時適切に情報発信した結果が実績値の増加につながったと考えられます。   |  |
|      |                      |      |                 | 11      | 市民と行政との間で市政情報が適切に共有されていると感じる市民の割合 | 目標値は平成29年度が74.0%で最終計画年度の令和3年度は80.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が69.8%から令和2年度には77.0%件と増加し、最終年度の令和3年は79.2%にさらに増加しました。実績の経過の要因としては、子育て、教育、障がい、介護などに関する様々な情報を、市ホームページ、Morinfo（もりんふお）、広報誌などを活用し、分かり易い情報発信に務め、また守谷市議会だより（KOJUKEI）を発行するなど、これらの結果が実績値の増加につながったと考えられます。   |  |
| 4    | 安心して暮らせる地域づくり        | 1    | 防災・防犯対策等の充実     | 12      | 災害面で安全に暮らせると思う市民の割合               | 目標値は平成29年度が78.0%で最終計画年度の令和3年度は82.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が78.1%から令和2年度には82.7%に若干の増減を経て、最終年度の令和3年度は85.6%と大きく増加しました。実績の経過の要因としては、広報誌に防災特集記事を掲載したほか、まちづくり協議会や自治会での防災講話・防災講演会等の地域に出向いた活動が目標値を上回る結果につながったと考えられます。   |  |
|      |                      |      |                 | 13      | 災害時に、近所に助けが必要な人がいることを知っている市民の割合   | 目標値は平成29年度が19.0%で最終計画年度の令和3年度は25.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が18.8%から令和2年度には20.4%に若干の増減を経て、最終年度の令和3年度は19.6%に若干の減少となりました。実績の経過の要因としては、要支援者名簿の管理に自信が持てないとする理由から要支援者名簿の受領に応じない町内会や自治会があるほか、町内会や自治会への要支援者名簿の提供に同意しない要支援者がいるなどの理由から、実績値が低いと考えられます。  |  |
|      |                      |      |                 | 14      | 人口千人当たりの刑法犯認知件数(年間)               | 目標値は平成29年度が8.5件で最終計画年度の令和3年度は8件と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が9.03件から令和2年度には5.92件に若干の増減を経て、最終年度の令和3年度は5.09件に若干の減少となりました。実績の経過の要因としては、防犯パトロール隊によるパトロール活動や、Morinfo（もりんふお）の防犯情報機能を活用し、特殊詐欺や侵入窃盗などの被害状況や防犯上注意を要するポイントなどを適時適切な情報提供に努めていることが、低い刑法犯認知件数につながっていると考えられます。   |  |
|      |                      | 2    | 権利擁護体制の充実       | 15      | 人権が尊重されているまちだと思ふ市民の割合             | 目標値は平成29年度が70.0%で最終計画年度の令和3年度は72.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が70.8%から令和2年度には72.2%に若干の増減を経て、最終年度の令和3年度は71.4%に若干の減少となりました。実績の経過の要因としては、障がい者週間では、庁舎正面玄関に懸垂幕の設置したほか、広報誌や市政情報モニターに障がい者と合わせてヘルプマークの周知に関する記事を掲載したものの、新型コロナウイルス感染症の影響から守谷市障害福祉センターにおける「ひこうせんまつり」は中止となり、また障がい者週間に市役所市民ホールに展示した障がい者（児）の手による作品も市民の外出自粛により目標値に届かなかったことが考えられます。 |  |
|      |                      | 3    | 生活困窮者への支援       | 16      | 1か月以上相談支援を行ったにもかかわらず、生活保護に至った割合   | 目標値は平成29年度が1.6%で最終計画年度の令和3年度は1.0%と設定しました。これに対し、実績値は、平成29年度が3.9%から令和2年度には2.9%に若干の増減を経て、最終年度の令和3年度は2.3%に若干の減少となりました。実績の経過の要因としては、生活困窮者の状況に応じて自立に向けた、家計改善や各種給付制度等の利用に向けた支援を実施した結果が、低い実績値につながったと考えられます。   |  |